

## かまくらささえあい福祉プラン 主任児童委員連絡協議会 懇談会 議事録

日 時 平成30年26日(月) 14時10分～14時50分  
会 場 鎌倉市社会福祉協議会 福祉団体活動室  
出席者 主任児童委員 17名  
推進委員 1名 市生活福祉課 2名  
事務局 鎌倉市社協 堀井・河野

事務局より懇談会の趣旨説明

### 議事概要

#### 議題

- (1) 地域共生社会づくりに向けて  
資料；ヒアリングの趣旨 に基づき説明 (事務局)

#### 議題

- (2) 意見交換 (発言概要)

### ※居場所について

- ・由比ガ浜に子育て支援センターが移転し、子育てサロンに来る方が福祉センターのときは気軽に子どもと一緒に飲食ができたが、今はコンクリート吹き抜けでとても寒いところにお昼の時間だけ椅子が出されて、そこで食べなくてはいけなくなり、前より広くてきれいになったのに、すごく行きづらくなったと言っていた。床暖房も来場者が来るまで付けていて、人が来ると止める。もっと来る人の立場になって考えてほしい。
- ・小中学生に対して、スポーツをするところが少ない。グラウンドの奪い合い状態。公園でボール遊びができない。どこならボールで遊んでいいと言えないのも心苦しい。
- ・放課後に学校開放してほしい。学校で責任者がいないと何か言われるから学校が貸せなくなっている。また、大人も少し変わって、ここの公園でケガしたら危ないからやめなさい、今誰も大人がいないからやめなさいではなく、社会がこうなっているから仕方ないのだが、みんながゆったりと見てもらえたらよい。
- ・大型商業施設で子どもを預けながら買い物もできて、ランチもできて、そうした1日を楽しんでいる若いお母さんが多い。市でも、大きな建物でワンコインの託児付きでご家族がちょっと息抜きできて、図書館で本が読めたり、コンサートがあつたりすると、お母さん自身もゆったりと楽しめて集まれる場所があればよいのではないか。
- ・鎌倉は場所が全然ない。例えば、公園など外で何か食べようと思ってもベンチもなければ水場もない。
- ・市も頑張って居場所を作っているが、端っこの方の、影の方という作り方をされる。入りやすく明るいイメージが少ない。
- ・お寺の境内などを使わせてもらえると良い。昔は神社やお寺で遊んでいた。今はそういうのがない。
- ・小さな公園は多いが誰も使っていない。整備が行き届かなく、滑り台があるのにいつも誰もいなくて

使ってよいのかと思うところがある。使いづらさの悪循環になっている。

- ・今でもボールで遊んでよくて遊具もある公園は人気があって、すごく子供が集まっている。
- ・海浜公園では、ボールを蹴るのにちょうどよいフェンスがあるのに、蹴れなくするように植木を植えられた。いろいろな規制ばかりでもどかしい。
- ・昔はよく川遊びで下に降りられたが、今では川遊びは危ないという看板が沢山ある。

## ※地域活動について

- ・子ども食堂の参加者は子どもが少なく、スタッフの大人が多い。貧困や孤食という子ども連れのお母さんが躊躇してしまう。一步が踏み出せない。もう少し敷居を低くできないか。誰でもふらっと来られるような場づくりが必要。
- ・子どもたちに作ってあげる、食べさせてあげるではなく、一緒に作ること。作り方を教えることから支えてやってほしい。
- ・声のあがりづらい方（家庭）、問題がみえづらい方など、気になるケースがあったときに、どうすればアプローチしやすいか？
- ・本当に困っている人に伝えられるサービスがない。本当にこまっているときにこのサービスはいくらですよという情報はできればしない方がよい。無料サービスが必要だと思うような家庭に上手くつながれるボランティア団体などがあるとよい。
- ・つながり合うためには、しっかりそこに専門職が入ってきめ細かな対応できないと民生委員にも負担がかかるという意見が他にもあがった。
- ・少ない子どもを大勢の大人で支えあっているという構図が見える鎌倉市にしていきたい。
- ・つながりという点で。子育てサロンという若いお母さんが来るイメージだったが、おじいちゃんとおばあちゃんが孫を連れてきてくれた。それから、街で気にしてみると、70代以上の高齢者が孫をベビーカーに乗せて外出していたり、世話をしている光景をよく目にするようになった。私たちも高齢者は民生委員で子供や母親は主任児童委員と分けてはダメだと思った。

## ※市について

- ・市は、無計画に建築許可を出さないでほしい。由比ガ浜のテニスコート跡地に商業施設を建てるため、道路を2車線化する必要があるが道幅を広げるために、海浜公園の一部を道路しなければならない。商業施設のために公園を狭くすることになる。それはもちろん市が許可しないとできないこと。
- ・海浜公園の江ノ電の車両が置いてあるところも、ギリギリのところまでマンションが建つ。ボール遊びができなくなるのではないかと心配。もう少し市から強く子どもを擁護することを言ってほしい。
- ・高齢者の事を考えているときにも行政の窓口が一本化すればいいのにと意見が出たと思う。数年前、こどもみらい課というのができて、子どもの事を何でも言えば全部つながると言っていたが、生活福祉課の行事（子育てサロン）を青少年課に許可を得なければできなかった。これから子育てをしていくお母さんとしては、この問題はどこに相談すればよいのかということで悩んでいる人が多いと思う。こどもみらい課のような存在をもっと重要視してもらいたい。
- ・市民課は戸籍などを取扱う課だと思うが、本当は市民の声が届くような場所になるのではないかと思う。
- ・肢体不自由の方が、年金の口座を変える付き添いをしたとき、何課に行って、どこに行くと、いろいろなところに移動した。その人が動けたからよいが、その人のためにコンシェルジュがいて、一括して

窓口でやるというのは鎌倉市ではないですかねと聞いたら、無理ですねと言われた。

- ・子どもは子ども、高齢者は高齢者ではなく、全て市民がやることだったらここで大丈夫ですよという課になっていけばもっと鎌倉市が住みやすい街になるのではないかと思う。

### ※かまくらささえあい福祉プランについて

- ・先日、活動計画を見ました。あれは人に読んでもらおうと思って作っている冊子ですよ。でも先ほど聞いたら、見ていない人が多い。計画は国とか県に対して市の目標を言っているもの？と思って、それを私たちは知りたいのかな？と思う。それよりも、困ったときどこに相談すればいいのかだけ情報があればよい。
- ・この計画を読んだ人はあまりいないと思う。福祉のくくりでは子育てには比重が少ない。子育てでは何を参考にするかという、小冊子「きらきら」しかない。